

せいたく

その前途をよめ その歩む日 決行する日

伊豆大下と存と自分も思っている

その前に 平静に

津浦 線今刻 そんなを、むすぶ

秋に深甲の葉 血鏡 松香表

津浦すゝものえととの五ふく 物群とや

9は9足るう とても不思議に

を心むたあうすゝてい

句漫々くししを甲意しむときつていた

本人わすびるく地の人からの帰路に

すわりていりる用意 津浦はびくたに

本人かうの情緒がなりといふのけ 孤一人

の人柄としてみとめているしせりかと思ろ

9はひかかた そろでけの心と思ひに

が空つ新へつれりてくれる人も せしか

してと思ひ 手はとりたくなくと思ろ

本人が言つていた かりに、つて説明を娘に

せかす言つていり 本人の私を監視して

一人の人の胸としてやとやていりるいりだ

やさしくしてくれよ  
それ毎年よりだから  
なつか

あとも二階内出しで使った  
新しいつねてつてくれよ

く女房？ きつとやさしさを  
たろよ

いねあつてくれよと  
思ふたの何かお返し

い 孫の知事さん  
うちの中をあらうよ

はあやがたいこと  
たのじ 孫付せいの  
たろ

うか

気分どめろ  
その事を考え  
ていろ

あそぶよ 思ひが  
たろよ

その人がいふ  
と感涙に  
たろよ

たろよが たた  
ほほよの  
どりよ

自らの事と  
考えよ  
つねて  
たろよ